令和2年度（令和元年度対象）

南あわじ市の教育　点検・評価
報　告　書

令　和　２年　８月

南　あ　わ　じ　市　教　育　委　員　会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

もくじ

はじめに…… 1

Ⅰ.次世代の人材を育てる教育…… 2

基本方針１　「確かな学力」の確立と自立して生きる力の育成…… 3

基本方針２　「豊かな心」を育成する道徳･人権教育の充実…… 8

基本方針３　体育･食育活動を通じた「健やかな体」の育成…… 12

基本方針４　安全･安心で、開かれた学校･園づくりの推進…… 14

基本方針５　教職員としての資質と実践的指導力の向上…… 18

基本方針６　遊びを通した確かな「学び」を培う幼児教育の推進…… 20

基本方針７　安全･安心に過ごせる教育環境づくり…… 22

Ⅱ．活力と生きがいをはぐくむ教育…… 23

基本方針１　連帯社会の再生、家庭と地域の教育力の向上…… 24

基本方針２　体験を通して学ぶ伝統文化の香り高いまちづくりの支援…… 30

基本方針３　人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進…… 36

基本方針４　運動に親しみ体力の向上をめざした生涯スポーツの推進…… 38

基本方針５　社会教育の指導者としての資質と実践的指導力の向上…… 40

Ⅲ．教育環境の変化に対応する取組…… 42

Ⅳ．評価委員の意見…… 43

はじめに

南あわじ市では、「南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口、経済、地域社会の課題に一体的に取り組み、本市の人口減少の克服・地方創生に資する先進性・継続性のある取組を進めていっております。

教育委員会においても、平成２７年度から５か年計画として「第２期南あわじ市教育振興基本計画」を策定し、令和元年度は、本計画に基づき「南あわじ市の教育方針」を定め、「ふれあい共生の人づくり」をテーマに、人権尊重を基盤とした教育・文化をめざした事業に取り組んでまいりました。

また、豊かな心と活力ある人材の育成を図るため、「知恵あふれ、ふるさと南あわじを大切にする人づくり」をサブテーマとして、学校教育においては、「次世代の人材を育てる教育」、社会教育では、「活力と生きがいをはぐくむ教育」を基本目標に掲げ、それぞれ具体的な諸事業を推進してまいりました。

これらの諸事業を適切に執行するには、各事業が効率的に実施されているか、有効的に行われているかなど随時点検評価していくことが必要であると考えます。加えて、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２６条には、教育委員会行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することと規定されております。

こうしたことから、教育委員会では、課題や取組の方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民の皆さんへ説明責任を果たすため、「南あわじ市の教育方針」に基づき令和元年度に実施した主な事業について点検評価を行い、その結果を報告書にまとめました。

なお、点検・評価実施にあたっては、評価内容の客観性を確保するため、学識経験者のご意見をいただいており、今後の教育行政に反映させていきたいと考えております。

また、教育委員会では、よりよい南あわじ市の教育の実現に向けて努力してまいりたいと存じますので、皆様の一層のご理解とご支援をよろしくお願い申しあげます。

令和２年８月

南あわじ市教育委員会

南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

Ⅰ．次世代の人材を育てる教育

基本方針1 「確かな学力」の確立と自立して生きる力の育成

基本方針2 「豊かな心」を育成する道徳・人権教育の充実

基本方針3 体育・食育活動を通じた「健やかな体」の育成

基本方針4 安全・安心で、開かれた学校・園づくりの推進

基本方針5 教職員としての資質と実践的指導力の向上

基本方針6 遊びを通した確かな「学び」を培う幼児教育の推進

基本方針7 安全・安心に過ごせる教育環境づくり

基本方針1 「確かな学力」の確立と自立して生きる力の育成

【重点目標】

① 児童生徒の実態に即し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、指導方法の工夫・改善に努め、個に応じた多様な指導の充実を図る。

② 基礎・基本の確実な定着を図りながら、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を身に付けさせ、主体的に学習に取り組む姿勢を培う。

③ 豊かな体験活動や課題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力等の育成・向上を図るとともに、言語活動を充実させて「ことばの力」を育成する。

④ 合理的配慮の提供をふまえ、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る。

⑤ 教育活動全体を通じた小中一貫の組織的・系統的なキャリア教育の充実に取り組む。

⑥ グローバル化に対応した教育を推進し、英語力の向上を図る。

⑦ 人形浄瑠璃等の伝統芸能を活用したコミュニケーション能力の育成を図る。

新学習システム推進事業

重点目標項目	①②⑥	担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	小学校13校・中学校4校に、加配教員を配置し、個に応じた指導を推進した。（2～4年生の35人学級編制、「兵庫型教科担任制」少人数授業・小学校英語専科等）		
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　小学校においては、2～4年生の35人学級編制について4校が2学級編制で調査・研究に取り組み、指導の充実により学力の充実を図ることができた。また、中学校への円滑な接続を図るため兵庫型教科担任制を推進、中1ギャップの解消に取り組んできた。特に、英語の専科については2校で実施し、専門性を生かした授業内容となった。 中学校においては、英語や数学等で少人数授業を行い、基礎・基本の確実な定着と学力向上に一定の成果を上げることができた。 【課題】　少人数指導や同室複数指導の有効的な方法を探るには指導内容や進度調整について効果的に打ち合わせを行うため時間が必要であった。また、学級担任の負担軽減、専門的指導の充実については、令和2年度より新たに「高学年専科」と拠点校式の「英語専科」を採用し改善に向けた取組を進めることとしている。		

南あわじがんばりタイム（学習支援）

重点目標項目	②	担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	全国学力・学習状況調査結果の分析・検証に基づき、学力向上に向けて、小学校13校において、地域人材を活用した放課後の学力向上方策に取り組んだ。（ほか3校についてはアフタースクール、子ども教室の利用）		
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　市内13小学校で実施した。各校とも、児童の実態に合わせて実施対象学年や実施日数を決定し取り組んだ。基礎学力定着を目指し、漢字や計算等の練習を中心に行うだけでなく、応用的発展的な問題を用意し、個々の到達度に応じて個別指導を行った。 また、主体的に取り組めるような方法や場の工夫を行う取組が多くなってきた。 【課題】　希望者が多い場合は、個々のつまずきに応じた個別指導が難しい。学習教材の工夫と充実が必要であるが、学級担任の負担が大きくなっている。学習教材の準備や担任と講師の打ち合わせ時間をいかにとるか等、学校の実態に合わせた運営上の工夫が必要である。令和2年度は、授業中にも学習支援ができるようになったので、その効果を期待している。		

なかよし音楽会事業

重点目標項目	③	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	市内16小学校398人の6年生が一堂に会し、4グループに分かれて合同合唱・合奏を披露した。また、サクソフォーン・カルテットによる特別演奏を鑑賞した。 事前にはグループごとの合同練習と講師招聘による研修会を行い、音楽による表現力の向上と指導力の向上を図った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　市内全6年生が音楽を通じて学校間交流をすることで、音楽による表現力の向上・言語活動の充実が図られるとともに、市としての一体感を向上させることができた。また音楽会当日に向けた各校での練習、合同練習、大学教授による研修で指導力向上も図っている。さらに基本的に同一中学校区でグループ編成することで、中1ギャップの解消に資する活動ともなっている。 【課題】　小学校での学びが中学校での合唱に生かされるよう、中学校と連携を図り、互いの音楽会への出席や合同実技研修を進めていく必要がある。

吉備国際大学との交流

重点目標項目	③	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	平成25年4月に南あわじ市に新設された吉備国際大学との交流を図った。 近隣の小中学校とのイベントや教職員研修の講師派遣、会場提供の協力を通して交流を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　地元の三原志知小学校とは、毎年交流が続いており、大学生を運動会に招いたり、学園祭で和太鼓演奏を行っている。また、トライやるウィークの事業所として中学生を受入れていただいている。 その他、教職員研修を行う際の会場提供やいじめ問題連絡協議会の委員等にも協力いただいている。 【課題】　専門性の高い授業を提供していただける環境にあるので、今後とも小中学校の発達段階や学習状況に応じた内容の依頼を継続していきたい。また、教職員の研修においても、大学と連携し、より専門的な研究内容を学び、日々の教育実践に生かすことができるような研修の場を継続して設定していきたい。

中学校体験事業

重点目標項目	⑤	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	市内の中学1年生を中心にものづくり体験学習を実施をした。各分野のプロ(匠)から直接指導を受け、ものづくりの楽しさや奥深さを体験した。 また、わくわくオーケストラでは、県立芸術文化センター大ホールにて本格的な交響楽団の演奏を鑑賞した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　将来の進路を考える上で、重要となる時期に、プロの職人から実際に手ほどきを受け、職業としてのものづくりを体験した。また数々の作品から高度の技やものづくりのプロセスを学び、兵庫の伝統的な産業にも触れることができた。 わくわくオーケストラでは、世界の有名な楽曲や楽器の種類、奏法、鑑賞の仕方について学び、本格的な生の演奏を鑑賞することで、音楽の魅力を感じることができた。 【課題】　プロの技に触れることで、高度な技術や生演奏の迫力を味わうことできた。この貴重な体験で学んだことを、今後の生活や学習活動等全ての行動につなげていき、将来の職業等を考えるきっかけにしていくことが重要である。

小中学校特別支援学級交流事業

重点目標項目	④	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	市全体（1回）と3つのブロック（各1回）での交流事業を実施し、他校の児童生徒との交流や体験活動を行った。 また、淡路教育事務所の特別支援教育推進員を招聘し、子どもの社会的自立や進路を見据えた支援のあり方について保護者と共に学ぶ機会を持った。 ・ 瓦体験、進路の話 （三原B） ・ 音楽体験、進路の話 （南淡B） ・ 砂遊び、水遊び （緑・西淡B）
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　市特別支援学級交流遠足には、15校児童生徒59人、保護者46人、教職員35人、合計140人が参加した。 ブロック交流、市全体交流とも、校外で遊んだり活動する中で、児童生徒だけでなく保護者同士の交流ができた。 【課題】　各児童生徒の課題は多種多様であり、教育・福祉・医療・労働等の関係機関の連携は欠かせない。将来を見据えた一人一人の支援内容・方法について、確実に引き継いでいく必要がある。

特別な支援を要する児童生徒への対応

重点目標項目	④	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	特別支援教育支援員（市単）を23人配置し、特別な支援が必要な児童生徒への指導にあたった。 医療的ケアを2校で実施し、看護師を関係校へ派遣した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　小・中学校において障がいのある児童生徒に対し、食事、排泄、教室の移動補助等学校における日常生活動作の介助を行ったり、発達障がいの児童生徒に対し学習活動上や生活面でのサポートを行ったりした。また、中学校2校において、学校、家庭、看護師と連携し安全に医療的ケアを実施できた。 【課題】　個に応じた支援をスムーズに引き継ぐため、教育支援計画・指導計画をもとに関係機関の連携を密にしていく必要がある。また、通級指導を要する児童生徒（87人）も年々増加している。

トライやる・ウイーク推進事業

重点目標項目	⑤	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	事業所、地域、学校、家庭との連携を図りながら、子どもを育てる活動として、中学校2年生を対象に22年目を迎えた。 各中学校区におけるそれぞれの事業所で5日間の活動を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　中学校における進路指導、キャリア教育と関連づけて、事前事後指導の充実を図り、生徒一人一人が自分たちの生き方を見つめ、考えるきっかけとなっている。また、新規の協力事業所数の確保に努めるため担当者や事業所の代表者を集めて、トライやる・ウィーク推進会議を開くことができた。 【課題】　この経験を活かして、事後も地域行事や地域の活動に参加するなどの活動「トライやる・アクション」も全中学校で実施できている。この事業で培われた地域の教育力を活用し、新規の協力事業所を確保しながら継続していきたい。

外国語活動支援員の派遣・英語教育の推進

重点目標項目	⑥	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等

小学校各校に外国語指導助手（ALT）を配置し、義務教育段階でネイティブスピーカーの英語に触れ、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を養った。
また、英語が話せる日本人「外国語活動支援員」（ST）の派遣は7年目となり、担当教員、ALTと協力し、授業の充実を図った。
幼稚園・保育所においても、ALTを派遣し、「えいご遊び」を実施し外国の文化に慣れ親しむ活動を行った。
市の英語教育推進委員会では、新学習指導要領の完全実施にむけて、1・2年カリキュラム作りをしたりジョリーフォニックスの研修会を実施した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　小学校において、担任とALT・STが入って行う3人体制の外国語活動の授業が定着してきた。担任は授業全体を計画して授業を進める役を担い、ALTは英語の話すモデルとして、STは授業計画への助言や授業中の支援者として、授業が展開できている。STの配置により、児童一人一人が英語でのやり取りをする場面が増え、意欲的に英語に親しみ、会話を楽しもうとする児童が増えた。また、苦手意識がある児童に対しては、STが関わることできめ細やかな支援が可能となり、意欲を引き出すことができるようになってきている。
外国語活動の早期化、英語科の実施にむけて、担当者だけなくALTとSTも授業研究等に参加し、授業モデル案作りや教材作りに取り組んだ。特にSTとALTの導入部分の研究は効果を上げている。STは、英語の指導経験の浅い教員の支えとなっている。

【課題】　令和2年度より小学校外国語科（5・6年）が実施される。3・4年で15時間が35時間、5・6年は50時間から70時間に授業時数が増える。新教科書や新教材を使った授業づくりにALT・STを効果的に活用した指導方法の研究を進めていく必要がある。

外国人講師招致事業

重点目標項目	⑥	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等

外国語指導助手（ALT）を各校に配置し、義務教育段階でネイティブスピーカーの英語に触れ、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を養った。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　小学校ではALT配置体制を見直し、4名のうち2名を地元ALT、あとはJET－ALTとした。国からの普通交付税措置で、市の財政負担の軽減を図ることができた。また外国語活動の経験が豊富で日本語も話せる地元ALT2名がいることで、教委、学校、ALT、STと会議等を通して、より細やかなコミュニケーションを図ることができるようになり、JET－ALTへの研修や授業サポートも行うことで、児童生徒への指導力向上を図ることができた。さらに、各校の外国語活動の教材整備を行い、子どもたちが英語でふるさと自慢ができるように、教材「COOL　AWAJI」改訂版や動画を制作し、ケーブルテレビで放映した。
中学校では、「読むこと」「書くこと」も含め、発音や英会話能力が向上し、さらにレベルアップしたコミュニケーションが可能になった。また、過去のALTとのつながりを生かし、インターネットを使った国際交流を授業に生かす試みも一部の学校で行った。

【課題】　ALTの入れ替わりがあるため、指導力向上を図るための情報交換や研修を活発にしていく必要がある。
また、南あわじ市としての国際交流事業や地域等の学校以外にも積極的に関わり、学校での英語教育の成果を発揮できるような取組についても考えていきたい。

コアカリキュラム事業

重点目標項目	⑦	担当課	学校教育課

事業内容・ 実施状況等	南あわじ市コアカリキュラムは、「知恵あふれ、ふるさと南あわじを大切にする人づくり」を目標に、 ① 育成すべき資質・能力の明確化と小中学校9年間の達成レベル設定 ② ルーブリック評価の設定 ③ 淡路人形浄瑠璃を題材 とした授業設計となっている。（各学年10時間以内） 今年度は実際に全校でカリキュラムの検証（小1、3、5、中1）を行い、2小学校、1中学校で実践発表を行った。
成果・課題 及び 今後の対応等	【成果】　カリキュラムの検証を榎列小・神代小・三原中で公開授業を通して行った。また、コアメンバー並びに選抜メンバーを中心に、3回のブラッシュアップ研修を実施した。その結果、関連教科や評価方法の修正、授業に入る際の注意点等をまとめることができ、非常に使いやすいものになった。 【課題】　コアカリキュラムは、9年間の学習の積み上げだが、令和元年度からのスタートなので、毎年児童生徒の実情に合わせて、少しずつカリキュラムや評価等の微調整が必要になってくる。

コアカリキュラム事業

学力の充実を図る事業

基本方針2「豊かな心」を育成する道徳・人権教育の充実

【重点目標】

① 郷土の特色を生かした豊かな体験を通して、生命や自然に対する畏敬の念を育む。

② 自尊感情を高め、自己実現と共生をめざす人権教育を推進する。

③ 豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、他者への思いやりを育む道徳教育と道徳的実践力を培う。

④ 郷土の先人の生き方等地域の歴史を学び、ふるさと意識の向上を図る。

⑤ 「特別の教科 道徳」の理念に沿って、「考え、議論する道徳」の授業づくりを進める。

小学校体験事業

重点目標項目	①	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	小学校5年生では、4泊5日の自然学校、3年生では3回から5回の校外での環境体験学習を実施した。 自然学校では、全小学校で、防災に関するプログラムを開発・実施している。淡路青少年交流の家を拠点に活動、南淡B＆G海洋センターにてカヌーなどの海洋スポーツを体験した学校もあった。 環境体験では近くの山や川、池に行き、生物の観察を行ったり、田植え、稲刈りの実習をした。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　自然学校では、多様なプログラムを通して自然を体感するとともに、集団生活の中で協調性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている。また、防災学習を全校実施しており、体験活動を通して防災意識を高め、命のつながりを考えるきっかけとなった。 また、環境体験学習では、各校区における様々な自然環境に触れながら、地域住民や事業所の協力を得て、多くの体験活動を行うことができた。ふるさとの良さをあらためて確認することができ、自然に対する畏敬の念をはじめ、命のつながりや大切さを学ぶことができた。 【課題】　活動実施後のアンケート等を活用し、その後の児童の生活や学習にどう生かされたか検証し、指導の改善に努めることが重要である。

環境学習

自然学校で防災学習

ふるさと学習の促進　～ ふるさと副読本の活用 ～

重点目標項目	①④	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	淡路ふるさと学習副読本「ふるさと淡路島」、あわじ環境未来島副読本「みらい」を活用して、ふるさと意識を育み、系統的なふるさと学習を学校教育全体で取り組んだ。 小学3年生用「キッズ南あわじ」では、くにうみ神話を追加ページとして作成した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　淡路ふるさと学習副読本は、児童生徒自身が、社会科や理科、総合的な学習の時間等で、淡路島の地理や歴史・文化等の調べ学習等に活用できた。授業中のみならず家庭学習でも活用でき、日々の生活の中でふるさと淡路島への関心を持つきっかけとなった。また、自然学校や環境体験の前後に副読本を使って学習することで、知識と体験が結びつき、地域の良さやすばらしさを児童生徒が体感することができた。 【課題】　自分たちのふるさとである淡路島について学習する中で、ふるさと意識を深め、地域への愛をどのように育んでいくかが課題である。ふるさとの現状や課題にも目を向け、解決方法をみんなで考えようとする子どもたちの育成を目指し、学校・家庭・地域が積極的に関わっていくことが重要である。

帰国外国人受入体制推進事業

重点目標項目	②	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	日本語の理解や会話が不十分な外国人児童生徒への学力保障等を目的に、学校へ外国人児童生徒支援員を派遣する体制ができている。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　日本語指導が必要な児童生徒に、外国人児童生徒支援員を学校へ派遣し、日本語指導だけでなく異文化の生活で感じるストレスを和らげるとともに、保護者に対して母語で通訳することで、学校と家庭との連絡がスムーズにできるようになった。 【課題】　突然来日する外国人児童生徒の受入体制や母語を話せる支援員の確保が課題である。また、学習支援・進路指導等で個別に対応した支援をいかにしていくか、義務教育の最終年度の進路指導等、十分なサポートが必要である。

教職員人権教育研修事業

重点目標項目	②	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	教職員の人権感覚や人権尊重について理解を深め、人権意識の向上を図る。また人権教育の進め方、実践力を高めるための研修会を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　市内教職員の5割の参加を得て人権学習（「みんなの学校」）を実施した。7月には山口県人権啓発センターの川口泰司事務局長を迎えて『寝た子はネットで起こされる！？～教育、行政、個人が取り組むべきこととは～』というテーマで講演会を開催し、人権尊重の意識向上を図ることができた。また、市内人権授業研究会を行い、小学校低学年は三原志知小、中学年は賀集小、高学年は辰美小、中学校は南淡中で授業公開し、事後の研究協議でも活発な討議ができた。 【課題】　新たな人権課題が増加する中で、小中学校が9年間を見据え、系統立てて人権意識を育む取組を図っていくために、各学年毎に研修内容の精選や授業改善を行っていく必要がある。また教職員自身の人権尊重の意識や指導力の向上を図っていくことが重要である。

兵庫版道徳教育副読本の活用

重点目標項目	③	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等

兵庫ゆかりの人物を取り上げた「兵庫版道徳教育副読本」を小中学校で、各学年ごとに年間指導計画に位置づけ、積極的な活用を図った。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　全学校において、道徳の授業だけでなく、学校教育全体で副読本を活用することができた。特に、中学校では「特別の教科である道徳」が始まり、平成30年度、先行して始まった小学校とあわせてカリキュラムマネジメントにより副読本の活用の位置づけが明確になった。日々の授業だけでなく、家庭に持ち帰り、家族で読み合うなど、積極的に活用することができた。

【課題】　「兵庫版道徳教育副読本」を活用し、教材分析や指導方法の工夫等、さらなる効果的な活用を継続して研究していく必要がある。

夢プロジェクト事業

重点目標項目	③	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等

著名なスポーツ・文化人の講師を招聘し、南あわじ市内小中学校の児童生徒にスポーツ・文化の良さや楽しさ、そして努力する大切さなどを感じてもらい、目標を大きく、また大きな夢を持って生きていくことを期待しより豊かな生活を送ってもらうことを目的に開催した。

(1)派遣学校　三原・広田中学校　2校
　　倭文・松帆・湊・辰美小学校　4校

(2)講師

マリンバ奏者	三村奈々恵
バレーボール	山本隆弘、佐伯美香、斎藤真由美
一輪車	須郷真弥
俳優	武田航平、栄信、芹澤興人、吉村卓也、武田翔平
バスケットボール	伴晃生

(3)特別企画　「夢応援プロジェクト」
　「仮面ライダーグリス」上映イベント並びにクリーン活動
　対象　：　市内の希望する児童、園児を招待して開催
　講師　：　武田航平(仮面ライダーグリス役)、栄信(赤羽役)、
　　芹澤興人(青羽役)、吉村卓也(黄羽役)

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　市内中学校の2校と小学校の4校、あわせて6校に対し、著名なスポーツ・文化人を講師として派遣した。講演や実技を見て感動を覚え、将来の夢を描くきっかけになるよう期待する。
※倭文中学校は、日程調整ができず、中止となった。

【課題】　都市部に比べ、著名なスポーツ・文化人と交流する機会が少ない子どもたちにとって、将来に夢を持つこと、諦めない心を育てる機会となっている。一方、講師の選択や学校との日程調整、また限られた予算内で講師を選択しなければならいないことから、子どもたちの期待する講師へのオーダーや講師との調整等に苦慮する。

夢プロジェクト事業

「特別の教科 道徳」の授業づくり

重点目標項目	⑤	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等

令和元年度から、「特別の教科　道徳」が中学校でも完全実施となり、平成30年度まで実施してきた年間の指導計画の作成、教材研究、評価等の研修により、各中学校では不安や混乱なく授業実践が行われた。
小中学校で全面実施となり、取組の成果と課題がさらに明確になることから、引き続き授業の指導方法や評価等について、年3回の研修会を開催した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　　小中学校全面実施をむかえ、授業の指導方法や評価の仕方等の研修を継続することで、授業実践を積極的に行うことができた。また、指定の教科書を使った授業だけでなく、「兵庫版道徳教育副読本」、防災教育の視点から「明日に生きる」、人権の視点の「ほほえみ（小学校）」「きらめき（中学校）」等、様々な教材等を活用しながら、兵庫の道徳教育を行った。

【課題】　　評価が文章表記であることから、授業での児童生徒の道徳的心情や行動の変化をしっかりと見取る方法や分析の仕方等、評価する教員の能力の向上が求められる。また、「考える道徳」はかなり実践されているが、「考え、議論する道徳」の授業づくりへの取組は弱く、さらに推進していく必要がある。

基本方針3　体育・食育活動を通じた「健やかな体」の育成

【重点目標】

① 運動に親しむ習慣や意欲を養い、体力・運動能力の向上を図る。

② 発達段階をふまえた指導、安全の確保や休養の設定などにより、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

③ 健康で安全な生活を送るための基礎を培うとともに、家庭や地域と連携して食育の推進に取り組む。

小学校体育事業

重点目標項目	①	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	「かけっこマニュアル」を活用して、児童の走力向上を図った。（南あわじ市小学校体育連絡協議会） 市内16小学校の4年生以上を一堂に集め、南あわじ市小学校陸上競技大会を開催した。 あわじっ子スポーツ大会（小学生陸上競技大会）島内の5年生以上が参加した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　4・5・6年生の体力（走力・跳力・投力・持久力）を高める指導を通して、児童の総合的な体力の向上を図ることができた。各校で「かけっこマニュアル」を活用したり、3年連続で陸上指導の第一人者を講師に招き、実際に児童を指導する際の声のかけ方や留意する点について指導いただき、体育担当の指導力向上を図った。 また南あわじ市の陸上競技大会は、児童にとって仲間とともに取り組め、目標に向かって練習に励み、体力向上の良い機会となっている。 【課題】　運動に親しむ児童とそうでない児童の2極化がなお課題となっており、主体的に体を動かして遊んだり運動したりする習慣作りが課題である。そのためにも運動を身近で楽しみながら、生活習慣の一部となりつつ、体力や運動能力の向上につながる取組を行っていくことが重要である。

陸上競技大会にむけて

体育大会

体力アップサポーター派遣事業

重点目標項目	②	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	「体力アップひょうご」サポート事業の一環として、市内中学校の保健体育科教員を校区の小学校に派遣し、年間3回以上の体育授業を行い、体力向上の取組を進めた。 西淡中学校教員を辰美小学校に、南淡中学校教員を阿万小学校に、広田中学校教員を広田小学校に派遣し実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　辰美小学校では、1，2年生は水遊び、3，4年生は陸上運動(幅跳び)、5，6年生は器械運動(跳び箱)の授業、阿万小学校では、5年生を対象にボール運動(バスケットボール)の授業、広田小学校では4，5年生は体づくり運動(投運動)、6年生は陸上運動(短距離走)の授業が行われた。専門的な内容が学齢に合わせてわかりやすく行われ、児童も意欲的に取り組むことができた。 【課題】　事業が一時のイベントにならずに、日々の授業の実践や各学校での日常的な運動習慣づくり、そして児童の体力アップにつなげていく必要がある。また、小中連携を行いながら、系統的な体育のカリキュラムづくりを検討していくことも必要である。

食育推進事業

重点目標項目	③	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	学校教育全体で食育を実践している。「弁当の日」、「一年生保護者給食試食会」、「親子栄養教室」、「食育だよりの発行」等各校で特色のある取組を行った。 和食・地産地消・食のマナーなど学校給食を活用して食育に取り組むとともに、学校給食に地場食材を活用し、ふるさとの味と食文化を継承していく。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　各教科や特別活動等と関連づけながら学校教育全体で食育を行っている。農業体験で育てた野菜で料理を作ったり、いずみ会と連携して地場産物を活用した料理作り等に取り組んだ。 学校給食地場食材利用拡大推進事業では、令和元年度も学校給食で地元の食材を提供することができた。7月ハモのフライ、9月サンちゃんカレー、1月揚げ沼島ぶりの照りタレ、とどれも好評であった。 【課題】　家庭において、和食や伝統料理の継承が難しくなっている。手軽に食べ物が手に入る生活環境の中で、児童生徒だけでなく、家庭、地域に対しても、食に関する情報、淡路島の郷土料理を紹介、提供していくことが重要である。

体力アップサポーター派遣事業

地場食材利用拡大推進事業

基本方針4　安全・安心で、開かれた学校・園づくりの推進

【重点目標】

① 学校評価を生かし、「社会に開かれた教育課程」を重視する学校・園づくりを進める。

② 幼・保・こども園、小、中、高、大の連携を一層深める一方で、家庭や地域との絆を強めて児童虐待を防止し、安全な環境で、安心して生活を送ることができるよう実践を進める。

③ 子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実を図り、いじめや不登校などの課題に的確に対応する指導体制を整備し、未然防止や早期発見、早期対応に取り組む。

④ 家庭・地域・関係機関との連携をより深め、自らの命は自らで守る能力や人としての生き方・あり方を学ぶ防災教育を推進する。

学校評価の実施

重点目標項目	①	担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	幼稚園・小中学校において、学校評価の取組を実施した。（自己評価、学校関係者評価、評価の公表等）		
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　各学校・園で、学校内の評価とその公表、学校関係者の評価とその公表を実施し、評価結果を以後の教育活動の改善や推進につなげるPDCAサイクルが定着した。また、あんしんネット、学校だより・メール配信等で、学校の情報を広く知ってもらう取組も進んだ。さらに、兵庫教育大学院生の協力を得て、外部評価を実施、客観的な評価を得ることができた。 【課題】　学校評価や関係者評価での意見を活かし、さらに地域との連携・協働を深めて教育活動を充実させ、推進していく必要がある。学校の状況や取組をより知っていただくためにも、あんしんネットやHPを効果的に活用し、積極的に情報発信していく必要がある。		

小中連携の推進

重点目標項目	②	担当課	学校教育課
事業内容・実施状況等	中1ギャップを解消するため、各中学校区で授業体験や出身校訪問などの取組を進めている。 特に、キャリア教育の視点にたち、系統的なカリキュラムやキャリアノートを活用して、小中間の連携を図った。		
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　体験授業や体験入学等の交流事業により、6年生が中学校を身近に感じることができるようになり、中学校生活への不安の軽減に繋がっている。小中での9年間を見据えた全体計画やカリキュラム、資質・能力の育成を共有し、目指す児童生徒像を確認しながら、系統的な指導が行えるようになってきた。 【課題】　9年間を見据えた全体計画やカリキュラム、資質・能力の育成の計画を小中教職員が共通理解し、振り返りをしていかなければならない。また、各中学校区ごとの推進協議会等で小中連携を改善・充実させていく必要がある。		

自然学校における防災教育の取組

重点目標項目	②④	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	市内全小学校の5年生が、自然学校において、震災・学校支援チーム（EARTH隊員）や市役所危機管理課職員を招くなどして、各校で工夫した防災学習に取り組んだ。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　EARTH隊員による避難所体験活動（段ボールで就寝スペースを製作し寝袋で就寝）や災害食作り、校区の防災マップ作りなどの活動を通して、防災について考え、災害時には、まず自らの命は自らで守ることが大切であること、自助・共助が重要になってくること、また普段の過ごし方も大切であることなどを学習することができた。 【課題】　自らの命は自らで守る力を身に付ける従来の安全教育に加え、人間としての生き方・あり方を考える防災教育を推進していくことが重要である。

学校運営支援対策員事業

重点目標項目	②③	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	「学校運営支援対策員（警察OB、教員OB）」が学校運営の充実を図るため、各学校や関係機関と連携を図り支援を行った。 ・ 巡回訪問(支援・懇談・情報交換) ・ 校区パトロール ・ 会議への参加 ・ 業務日誌の作成・報告
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　市内の各学校を訪問し、児童生徒・保護者への対応や関係機関との連携の在り方について指導助言を行い、円滑な学校運営につなげている。本年度は、延べ470回の学校訪問を行い、支援を行うことができた。 【課題】　各学校が抱える問題も多様化・複雑化している中、組織的に学校支援に取り組むため、各教育関係機関との連携を更に深めることが重要である。

幼稚園・こども園ウィーク活動事業

重点目標項目	②	担当課	子育てゆめるん課・学校教育課

事業内容・実施状況等	「親子ふれあいフェスティバル」及び「造形展」の実施（幼稚園・こども園4園の交流）
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　みんなげんきバンドによる親子ふれあいコンサートは、リズミカルな曲に合わせて、おんぶやだっこ、ジャンケンなどの身近な遊びを取り入れたもので、大いに親子のスキンシップをはかる場となった。子どもにとって、親と1対1のふれあいは大きな喜びとなり、笑顔と歓声がわいた。日頃忙しい親にとっても同様、我が子の嬉しそうな表情を見ながら、親子でじっくりと関わる貴重な時間となった等の感想がたくさん寄せられ、親子関係を深める機会になった。 商業施設での展示となった造形展は、保護者や地域の方々に幼児教育の一端を見ていただく機会となり、園児の豊かな感性に関心を抱いてもらうことができた。 【課題】　幼稚園、こども園との交流行事を重ねてきたことで、園児や保護者同士のつながりができ、事業を期待する声がある。今回で親子ふれあいフェスティバル事業が最終となるが、親子をつなげる役割を担っている園側として、共通の体験の中で共感し合えた喜びや楽しさが、子ども達の育ちを支えるものとして、保護者と協力できる内容を工夫、展開し、保育現場に取り入れていかなければならない。 商業施設での作品展示により、幼児の造形・絵画表現力を一般の方にも観覧していただく機会となっているため、今後の継続を希望していく。

通学路安全推進会議の取組

重点目標項目	②	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	各道路管理関係機関、学校代表、保護者代表、警察が、通学路安全推進会議において、安全上・防犯上で危険な箇所を、学校毎に予備点検を行いながら精査し、緊急性を要する箇所の合同点検を行い、整備・改善を図った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　各校における通学路の予備点検により、登下校時の危険箇所等を洗い出すことができ、安全上・防犯上の対策を講じることができた。また、各道路管理によって通学路の整備や修繕が図られ、通学路の安全性を高めることができた。 【課題】　安全整備の予算の確保、条件により整備に時間を要すること等が課題である。安全上・防犯上、特に緊急に施策が必要な危険箇所を精査し、優先順位を決めて対応していく必要がある。関係機関とのスムーズな連携も重要である。

子ども安全対策

重点目標項目	②	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	市内の小中学校と幼稚園、さらに今年はこども園、保育所（園）、放課後子ども教室、学童保育にも登録を拡げ、不審者情報や緊急防犯情報をメールで一括配信する「こどもあんしんネット」で情報を発信した。 また、緊急時において、警察等の関係機関との連携が図れるよう体制づくりを進めた。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　放課後子ども教室、学童保育、こども園や保育所（園）の登録が追加され、各学校園等の予定や行事等も併せて、緊急を要する不審者情報や緊急防犯情報をメール発信し、安全対策の基盤となる家庭・地域との情報共有に効果を上げており、各学校園等からの情報提供手段として定着している。また、警察等と連携を図り、防犯カメラや防犯灯（LED）の設置等、地域の防犯や安全の対策を積極的に進めた。 【課題】　警察をはじめ関係機関や地域とさらに連携を図りながら、子ども達の安全管理を広く地域住民に周知していく必要がある。

いじめ問題対策協議会・対応委員会

重点目標項目	③	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	いじめ問題対策連絡協議会に、学識経験者、保護者代表、学校代表、地元警察、人権・福祉等関係機関を委員に委嘱し、市のいじめ防止について市内の状況や小中学校での取組等、情報交換並びに協議を行った。 いじめ問題対応委員会は、弁護士、精神科医、臨床心理士、SC、SSWを委員に委嘱し、市内小中学校の状況を情報共有後、重大事態への対処について確認を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　小中学校の中には児童生徒が主体となって、いじめ防止の活動を行うなど、教師からの指導だけに偏らず、児童生徒側からも積極的にいじめと向き合い、いじめを許さない集団づくりを進めることができた。教師によるいじめの積極的認知も定着してきた。また、いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題対応委員会で、各学校の現状と取組について情報共有ができ、いじめを許さない学校づくりについて意見交換を行い、学校への啓発を行うことができた。 【課題】　インターネット、スマホ等でのいじめは、実態が把握しにくくなってきている。いじめの芽を見逃さず、いじめの積極的認知をできる限り早くできるように学校と保護者・地域・関係機関がさらに連携を密にして、対応・啓発していく必要がある。

防災教育の推進

重点目標項目	④	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	小中学生を対象に防災ジュニアリーダー研修や東北ボランティア活動を行った。各学校において、それぞれ独自の取組を実施した。 また、拠点避難所部会を開催し、市職員・市教委・EARTH隊員と避難所運営の確認を行った。 11月に南淡中学校がメイン会場となり、市の総合防災訓練を行った。 舞子高校と教育協定を締結し、防災出前授業を4校で行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　防災ジュニアリーダー研修や小学生4名が初参加した東北ボランティア活動を実施。災害支援を考慮し、市内中学校の相互扶助を目的としたカウンターパート方式事業も含めて進めることができた。そして防災への知識や意識を高めることができた。 舞子高校による防災出前授業は、児童にとって親しみやすく、わかりやすい授業となった。 【課題】　防災計画・避難訓練の効果的な活用を図り、自分で考え判断し、自分の命を守る行動ができる児童生徒の育成を目指す。 学校管理下外や非常時に臨機応変に対応できる行動力の育成が課題である。

東北ボランティア活動

小学校での防災学習

基本方針5　教職員としての資質と実践的指導力の向上

【重点目標】

① 教職員としての高い使命感・倫理観を保持し、豊かな人間性の涵養に努める。

② 幅広い視点からＩＣＴを意図的・計画的に活用し、教育効果の向上をめざすとともに、教育の専門家としての感性豊かな実践的指導力の向上を図るなど、絶えず研修を深める。

③ 社会の変化に対応した教育観を培い、子どもに対する愛情と責任感を持ち、心の通い合う指導の充実を図る。

④ 初任者や若手教職員の研修を充実させる。

⑤ 兵庫教育大学と教育協定を締結し、ミドルリーダーを中心とした研修体制を整える。

教職員研修事業

重点目標項目	①②③	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	スクールチャレンジ事業開始（令和元年度～） 特色づくりや課題解決をねらいに各学校が計画を立て、その取組に対して支援を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　実施校においては、各校で研究テーマを設定し、専門家とともに授業研究等を行った。授業研究会は市内に広く周知し、教職員の研修の場を広げることができた。 また、本市の教職員研修事業を活用し、研修を積んだ。学校の研究テーマや新たな課題に対応する授業力の向上、課題解決で各校テーマを定め、22校全ての学校で実施することができた。 【課題】　今後求められる新たな学びの指導方法や教育課題等について、各校においてテーマを共有し、課題解決にあたる必要がある。

人権教育授業研究

重点目標項目	①②③	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	道徳教育と人権教育研究プロジェクトをもとに、幼保・小中・高等学校間の連携、共通理解のもと発達段階に応じた共通教材の選定、系統的な授業公開・授業研究の交流に努め、子ども同士のより豊かな人間関係や人権尊重の意識向上を図った。 小学低学年　三原志知小学校 小学中学年　賀集小学校 小学高学年　辰美小学校 中学校　南淡中学校
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　小学校から中学校へと系統的に人権教育を図るよう「人権プロジェクト」を進めており、小中学校授業研究会では、毎年4校の研究校が中心となり資料開発や授業研究を行い、学識者に助言をいただきながら内容を深めていくことができた。そして南人教が発行する「南人教プロジェクトだより」で学びを共有した。 また、南あわじ市人権教育・道徳教育推進委員会を開催し、「特別な教科　道徳」の中での人権教育の推進について共通理解を図った。 【課題】　多様化する社会において、取り組むべき新たな人権課題は多い。LGBTやSNSを取り巻く人権課題によるトラブルも起こっている。人権に関する知識理解が不十分であることで、児童生徒の間で差別したり差別されたりすることがないように、身近にある差別や新たな人権課題をテーマにした研修を取り入れ、個々の教員が積極的に人権感覚を磨き、家庭・地域と連携して学び続けていくことが必要である。

学校経営自主研修会

重点目標項目	①②③⑤	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	学校経営の後継者育成を大きなねらいとし、2つの講座を設けて、年間10回程度の研修会を開催した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　各学校における教育の取組について意見交換を行うとともに、教育の今日的課題を確認し、解決するための方策について協議し、次代を担うリーダー育成に寄与することができた。多くの教員が積極的に参加し、研修する体制が定着してきたと同時に教員同士の横のつながりや自覚、責任感が見え始めた。 【課題】　近年、管理職が不足する事態が予想されるため、中堅教員の資質をより高め、主幹等のミドルリーダーを育てる必要がある。また管理職の役割や魅力等についても改めて理解を求める必要がある。

初任者研修

重点目標項目	①④	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	初任教員に対して、「学級経営」、「生徒指導」、「ふるさと学習」、「児童生徒理解」を柱に、全3回の研修を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　校長OBである学校教育指導員による講義、日本遺産コーディネーターによるふるさと学習研修、淡路人形座での人形浄瑠璃鑑賞や舞台裏体験、また適応教室見学や市内の不登校児童生徒の現状と問題点やスクールカウンセラーによる児童・生徒理解の研修など、見識を広め力量を高めるとともに、教師としての資質向上を図ることができた。 【課題】　今後も、ふるさと学習はもとより、学校教育や今日的な課題等に目を向け取り組まなければならない事案が増えている。研修内容について現状等を考慮しながら進めていく必要がある。

教育用コンピュータ管理

重点目標項目	②	担当課	教育総務課

事業内容・実施状況等	全小中学校で校務支援システムのグループウェア機能を開始するとともに、モデル校（松帆小、湊小、西淡志知小、辰美小、西淡中）において校務支援機能の試験運用を開始した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　グループウェア機能の運用及び校務支援システム全機能の試験運用により、校務全般における情報共有と成績処理等業務における効率化を図ることができた。 【課題】　グループウェア機能の効果的な活用を習慣化すると共に校務支援機能の試験運用状況を十分検証し、より効果的で効率的な本格運用に繋げなければならない。

サテライト講座

重点目標項目	⑤	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	兵庫教育大学と協定を結び、学校経営の研修会を年間5回開催した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　各学校における管理職や主幹教諭、ミドルリーダーを中心に、兵庫教育大学大学院　浅野良一教授を招聘し研修会を開催した。教育の今日的課題解決、学校運営やマネジメントについて、深く学ぶ場となった。兵庫教育大学院生（管理職）と浅野先生による外部学校評価を導入した。 【課題】　今後、学校運営を担う管理職が不足する事態が予想される中で、マネジメント能力育成や中堅教員の資質向上等を通して、学校経営の見方考え方を育成する必要がある。

基本方針6　遊びを通した確かな「学び」を培う幼児教育の推進

【重点目標】

① 幼児の発達や自発的な活動の遊びを重視し、体験を通したものの「見方・考え方」を育む。

② 幼・保・こども園、小の連携及び交流活動を通して、円滑な接続を行う。

③ 幼児の直接的・具体的な体験活動を通して、伝え合う力の育成や自立と協同の態度を培う。

PDCAサイクルに基づく保育

重点目標項目	①	担当課	子育てゆめるん課・学校教育課
事業内容・実施状況等	幼児の発達を見通した創意ある教育課程の編成・実施 特別な支援が必要な幼児の指導（園内委員会においての実態把握や支援方法などの探求）		
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　日々の保育の反省・評価を欠かさず、幼児の内面や育ちを捉えていくことで、一人一人の良さや可能性を引き出すことができた。また、様々な遊びや体験の中で、主体的に活動する姿が見られるようになった。支援が必要な幼児の指導については、職員間の共通理解を図るための園内委員会を開き、合理的配慮と保護者への合意形成を視野に入れ、適切な支援への取組を進めた。そして、保護者と合意形成がとれるような支援シートの作成に至った。 【課題】　園の実態を踏まえた具体的な指導計画の支援シートの作成や教師の資質向上を図るため研修の機会を設ける必要がある。支援と評価について充実に努めていく必要がある。		

こども園・幼小連絡協議会

重点目標項目	②	担当課	子育てゆめるん課・学校教育課
事業内容・実施状況等	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続と体制作り（年2回各校長、園長が集まり、交流計画や連携について意見交換）		
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　幼稚園・こども園・保育所（園）・小学校の交流内容について、お互いに意見交流や情報交換ができ、幼児教育への理解が得られた。特に、幼稚園教育要領改訂の実施に伴い、幼稚園・こども園・保育所（園）において、幼児期の教育として「幼児期において育みたい資質・能力」が、小学校につながる「基礎」となることを、研修会で学ぶことができた。 幼稚園・こども園・保育所（園）・小学校の連携を大切にするためにも、幼児と向き合い、どう育てるか見直し、資質能力の育成に努めることの重要性を感じた。 【課題】　幼稚園・こども園・保育所（園）と小学校の交流の場を広げるだけでなく、お互いに授業参観を通して、どんな力や学びがつながっているのか、理解し合うことが必要である。今後、幼児期の教育と小学校の教育に滑らかな接続に取り組むためにもカリキュラムを整える必要がある。		

豊かな体験活動

重点目標項目	③	担当課	子育てゆめるん課・学校教育課

事業内容・実施状況等	直接体験や感動体験を通して、自立に向かう姿の育成、豊かな感性を育て伝え合う力を養う取組を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　身近な自然に直接触れて季節の変化に応じた自然に触れる体験を重ねてきた。その時々の幼児の表情やつぶやきを丁寧に受け止め、興味に寄り添っていくことで、色、形、匂い、感触などを豊かに表現できた。絵や文字、言葉や表現遊びで思いを伝える場を広げていく過程は、個性を発揮しながら友達同士で認め合う場となった。さらに地域の方の優しさにも触れ、自分達が住むまちの良さを大いに感じ取った。 【課題】　様々な体験活動は、どういう学びがあるのか見通しを持ちながら、幼児の行動や興味を観察し、一人一人の発達状況や個性に応じた援助を行う教師の意識が大切である。また、幼児が興味に向かってじっくり取り組むことが出来る時間の保障が必要である。

直接体験・感動体験

基本方針7　安全・安心に過ごせる環境づくり

【重点目標】

① 小学校への空調設備の整備を実施する。

② 子どもたちが安全で安心な学校生活を送れるように、小・中学校施設の改修等を行う。

小学校空調設備整備事業

重点目標項目	①	担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	令和元年度は、第4期工事として、湊（7教室）・旧西淡志知（6教室）・旧三原志知（4教室）・沼島（4教室）小学校4校の整備を実施した。なお沼島小学校については、災害時の拠点避難所であることから、普通教室3室に加え、災害対策室に指定されている家庭室についても整備した。		
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　年間を通して快適な学習環境を整えることで、児童や教員の満足度と学習効果の向上を実現できた。これにより、児童の学力アップと教員のより効率的な授業展開が期待される。 【課題】　適正な空調の運用管理の徹底により、学習環境の保全と省エネに努める必要がある。		

小中学校施設の改修

重点目標項目	②	担当課	教育総務課
事業内容・実施状況等	令和元年度、西淡中学校の瓦道等改修や三原中学校のプール解体等に加え、各小中学校でのブロック塀改修等営繕工事を実施した。 また、令和2年度に大規模改修予定の松帆・旧西淡志知・賀集小学校の実施設計を実施した。		
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　学校施設の不具合等を改善し、より快適で安心・安全な学校生活の確保ができた。 【課題】　高度経済成長期に集中整備された多くの小中学校施設が一斉に老朽化を迎えているため、安全性の確保と教育環境改善を考慮した上で、計画的にコストの平準化を図りながら大規模改修を進めて行く必要がある。		

Ⅱ. 活力と生きがいをはぐくむ教育

基本方針1　連帯社会の再生、家庭と地域の教育力の向上

基本方針2　体験を通して学ぶ伝統文化の香り高いまちづくりの支援

基本方針3　人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進

基本方針4　運動に親しみ体力の向上をめざした生涯スポーツの推進

基本方針5　社会教育の指導者としての資質と実践的指導力の向上

基本方針1　連帯社会の再生、家庭と地域の教育力の向上

【重点目標】

① 家庭の教育力の向上を図るため、学習機会の提供と子育て支援の充実を図る。

② 「地域のおじさんおばさん運動」等のネットワークづくりを活用して、子育て家庭への見守りや青少年の健全育成に努める。

③ 地域の連帯意識を高めるため、異年齢や異世代とのかかわりを通して、自主性や創造性・社会性を育む体験活動、学校支援活動の充実を図る。

④ 住民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を創出するため、年齢や性別、障がい等を問わず、人々が、関心や適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備する。

⑤ 「早寝・早起き・朝ごはん」運動や「あいさつ運動」を進める。

家庭学習の啓発のための手引き作成事業

重点目標項目	①	担当課	学校教育課

事業内容・実施状況等	子どもの望ましい学習習慣や生活習慣の形成に向けて、『南あわじっ子に確かな学力を！』のリーフレットを配布し、家庭での取組や学習について、学校と家庭の連携を図った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　子どもの発達段階に応じた家庭学習の時間や方法、生活習慣の形成に係る内容や新しい学習指導要領、生き抜く力の育成についてリーフレットにまとめて家庭に配信し、家庭教育への意識の向上に取り組むことができた。 【課題】　保護者に対しては、学習習慣や生活習慣の形成が重要であることを継続して啓発し、リーフレットの内容をさらに工夫・充実させていく必要がある。また、子どもが主体的に家庭学習に取り組めるように、学校と保護者がさらに連携していくことが大切である。

家庭教育推進事業

重点目標項目	①	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等	就学前児童の保護者を対象に、臨床心理士による「各発達段階における子どもとの接し方」について研修会を開催した。 また、連合PTA事業として、子育ての家庭の教育力向上を図るため、家庭教育講演会を開催予定していたが台風接近のため、中止した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　市内小学校5校が利用。就学前児童の保護者への研修会では、各発達段階の心の変化への対処方法を研修し、心の悩み等をいち早く発見し、早期対応能力の向上につなげることができた。 また、臨床心理士の派遣依頼を12月から10月に行ったことにより、各校からの派遣希望日が重なっても臨床心理士の派遣調整が可能となった。 家庭教育講演会は中止したが、市連合PTA研修委員会が中心となり、企画準備を進め、役員間の協力や連携などで、"きずな"づくりの醸成を図ることができた。 【課題】　学校での教育相談に関する事業が充実していることもあり、臨床心理士による研修会を実施する学校は少ない傾向にある。就学前児童の保護者を対象とした研修は実施時期が限られているため、引き続き周知する時期を早める。 家庭教育講演会では、子どもたちを取り巻く現代社会の環境変化の激しさをすばやくとらえ、講演会の目的と成果を明確にし、連合PTAと協議、連携しながら実施する必要がある。

放課後子ども教室事業

重点目標項目	①③	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等

地域の方の協力を得て、異年齢による工作・クッキング・楽器演奏・スポーツ等様々な体験プログラムや交流・遊び等を通し、子どもたちが安全で健やかに過ごせるように居場所を提供した。また、国立淡路青少年交流の家の協力を得て遊びリンピックに参加し、普段の教室で体験できないメニューを実施した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　西淡志知と三原志知教室では、週2回開設を3回に、沼島教室では週１回開設を2回にして、参加機会を増やした。湊・辰美教室では、学童保育所との一体型運営を実施し、新・放課後子どもプランの推進を図ることができた。
ただし、新型コロナウイルス感染症予防のため、３月の実施を中止したため、開催数は減少している。

比　較	平成30年度	令和元年度	増　減
総開催数	348回	306回	↓42回
のべ参加人数	5,070人	5,200人	↑130人

【課題】　事業に対する補助金が毎年削減されているため、事業拡大するほど一般財源の負担割合が大きくなる。一方で、アフタースクールの拡大を図るため、事業に参画するスタッフの確保を継続して行う必要がある。

放課後児童健全育成事業（学童保育）

重点目標項目	①③	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等

保護者が労働等によって昼間家庭にいない小学生に対して、遊びや生活の場を集団保育として提供し、児童の健全育成を図る目的で、市内13校区（学校内9か所、学童保育所専用2か所、公民館1か所、私立こども園内1か所）で実施した。
また、西淡志知・三原志知小学校区については、湊小への送迎型学童保育を実施し、未開設校区の解消を図った。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　登録者は全体で平均326人であり、昨年度の平均より35人の増加となっている。共働きの核家族世帯の増加が背景にあると思われる。
学童保育の生活の中に体験プログラムを取り入れ、異年齢の児童が共同作業や学び合う機会を創出したことで、子どもたちの生き生きした姿等が見られた。
西淡志知・三原志知小の送迎型学童保育については、今年度の利用者はなかった。

【課題】　支援員が子どもたちに寄り添い一緒に過ごす時間を設けて居場所にする必要がある。また、引き続き体験プログラムを取り入れ、見守りに加え、楽しく学べる放課後事業を計画する。多様な子ども達に対応する支援員の知識を養うための人材育成も必要である。

アフタースクール事業

重点目標項目	①③	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等

放課後の時間において、子どもが自ら考え主体的に行動し、判断できる力やコミュニケーション能力の向上、郷土愛豊かで郷土を誇りに思う心を育てることを目的にアフタースクール（新・放課後子ども総合プラン一体型事業）を実施している。
放課後児童クラブ・放課後子ども教室の一体型事業を推進し、各種体験プログラムを取り入れ、より価値の高い学びの場としながら、自由な空間の中で子どもたち自身が責任をもって選択し、自ら学びたいものに集中できるような環境づくりを行い、地域の人材を活用しながら、学ぶ楽しさに触れ、また学ぶ楽しさを感じることができる居場所としてアフタースクール事業に取り組む。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　令和元年度は八木学童保育所をアフタースクールのモデル教室として着手し、学童保育児童のみならず、その他の児童も参加して、工作や体育館遊びに加え、プログラミングやダンスなど継続した体験プログラムを実施し、従来と変化をした放課後の過ごし方を提供できた。
また、非営利特定法人に委託し、アフタースクールスタッフの育成やプログラムの発掘、運営支援に入っていただき、下地づくりに努めた。

【課題】　他の地域への取り組みの拡大や放課後における多様な過ごし方を提供するためには、より多くの地域住民の参画を求めたい。そのためにも、アフタースクールを認知してもらう取組が必要である。
また、多様な活動に対応できるスタッフの育成のため、研修の機会を多く設ける必要がある。

サマースクール（旧土曜チャレンジ教室）

重点目標項目	①③	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等

市内の子ども達を対象に、地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、長期休暇に体験プログラムを計画・実施した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　長期休暇ならではの野外プログラムや体験学習、継続的なプログラムを実施することで、子どもたちに経験の場を提供し世代間交流を促すことができた。
平成30年度までは、放課後子ども教室の開催地域を対象としていたが、令和元年度は市内全校区の児童を対象として、より多くの児童にサマースクールへの参加機会を設けた。

〔参加人数〕

サマースクール IN 沼島	30人
サマースクールキャンプ IN 青少年交流の家	19人
やまの学園	30人（前半）　27人（後半）
サマーチャレンジ （5教室）	117人

【課題】　夏休み事業については参加希望者が多く、また中央公民館のわんぱく塾と重複する活動もあるため、事業の整理が必要である。

B＆G塾 ・ サマースクール IN 沼島

そうめん流し ・ やまの学園

クッキング ・ 放課後子ども教室

遊びリンピック ・ 放課後子ども教室

青少年育成センター事業

重点目標項目	②	担当課	青少年育成センター

事業内容・実施状況等

子どもたちの健全育成事業を各種団体長、関係機関が集まり、青少年問題協議会を設立。
南あわじ子育てネットワーク推進協議会と共に青少年健全育成市民会議を開催した。
また、街頭補導活動の充実、「地域のおじさん・おばさん運動」の推進、学校・地域・関係機関との連携強化を図る活動を展開した。
南あわじ市スマホ・ネット推進委員会を開催し、市内小中学校の全児童生徒に南あわじ市スマホルール等の啓発リーフレットを配布した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　非行を未然に防ぐため、年間を通して青少年補導委員による一斉街頭補導活動や地域のおじさんおばさん運動等を継続している中で、青少年を有害な環境から守り、非行化を未然に防止するものとなっている。

(1)市民会議参加者　　約135人
(2)補導委員活動
・活動回数　　136回
・活動延べ人数　　600人

【課題】　インターネットの利用に関して青少年を犯罪から未然に防ぐため、ネット利用の危険性や家庭内でのルール作りなど必要な情報を提供してきたが、今後さらに関係機関・団体等と情報の共有、連携を図りながら、より巧妙になる犯罪の手口から子どもを守っていくため、適切な利用の啓発活動を展開し、周知を図ることが必要となっている。

青少年健全育成事業

重点目標項目	③	担当課	体育青少年課・中央公民館

事業内容・実施状況等	青少年教育の一環として、アウトドア活動を主にした様々な体験活動を通じ、地域の教育力向上と青少年の可能性を広げる事業を展開した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　Ｂ＆Ｇ海洋教室においては、台風などで中止もあったが、高校生や大学生もボランティア指導者として関わってもらい、BG塾や沼島サマーキャンプなど5日間開催し146人の児童が参加した。また自然学校や修学旅行などの様々な団体を13日間409人を受け入れた。その中でも6か所の児童養護施設の子どもたち102人や障がいのある子どもと保護者40人を対象としたプログラムを実施した。普段体験する機会の少ない海洋性レクリエーションを体験することで子どもたちの主体性やコミュニケーション能力を育むことに寄与した。 わんぱく塾事業では、夏休み期間や冬休みなどの長期休暇に講座を開設し、合計17事業34講座を実施し、延べ1,186名の参加者を迎えた。複数講座への受講生を除いた実参加者も772名となり、市内の小学校における全児童の33%が参加し開催を楽しみにしている事業へと発展している。わんぱく塾ではあえて大人数で行う事業を増やしている。200名以上が集まったナイトウォークのほか、Ｄ－１グランプリやデイキャンプ、南の島探検などでは目一杯大勢の子どもを参加させることにより、集団での自立性の確立といった能力を伸ばす目的も兼ね備えている。 また、受益者負担の軽減を考慮して、民間事業との協力を実施したり、地場産業の振興や防災教育などにも取り組んでいる。 安全面への配慮からスタッフの確保が課題となっていたが、ボーイスカウト活動助成を実施する中で、アウトドア活動の経験豊富なスカウト指導者に積極的に指導員として協力して頂ける関係になったほか、退職した教職員や現職の教職員のほか高校生のボランティアによる協力も受けて、事業を支えるスタッフの確保に努めている。 【課題】　放課後子ども教室や土曜チャレンジ事業等と重なる部分も多く、新しく始められたサマースクール事業の拡充もあって、特に夏休みなどは参加者の取り合いになっている。今後は、わんぱく塾事業の整理も考えなければならない。

市民スポーツの振興

重点目標項目	④	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等	市民スポーツの核となる社会体育施設・学校体育施設を市民に開放し、市民にスポーツ活動の場を提供することでスポーツ活動の活性化を図ることができている。施設の環境整備については、賀集スポーツセンター体育館の雨漏り修繕工事や阿万スポーツセンターグラウンドの記録室撤去等工事、文化体育館トレーニングルームの空調設備及び排煙装置の改修工事等を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　施設・設備の老朽化に伴い、不具合・故障等が発生しているが、緊急性の高い案件から順に計画的に修繕を進めることができた。施設利用についても利用者数は安定しており、地域住民にとって身近なスポーツの活動場所として提供することができた。 【課題】　スポーツ施設の環境整備、建物等の安全性の確保は当然のことながら、人口減少・少子化に関連し、長期的な視野に立ったスポーツ施設の維持管理・再編計画の整備が急がれ、市内体育施設の個別施設計画を作成した上で具体的な検討を重ねていく必要がある。 また、使用料・減免基準の見直しや財源確保も重要な課題と考えており、南あわじ市における持続可能な市民のスポーツ環境の構築を目指す。

食育推進事業

重点目標項目	⑤	担当課	社会教育課
事業内容・実施状況等	連合PTA事業として、市内各小学校1年生の保護者を対象に、給食試食会を実施した。		
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　保護者が実際に学校給食を食べることにより、地産地消、安全安心への理解を深めることができ、家庭での食生活を考える機会となった。 市内小学校16校すべてで給食試食会を実施し、348名の保護者が参加した。 【課題】　今後も給食試食会を実施することで、食生活について考える機会を増やすとともに、地域と学校との連携をさらに深め、食育についてともに考える取組が必要である。		

わんぱく塾 ： ナイトウォーク

わんぱく塾 ： デイキャンプ

わんぱく塾 ： 新春カルタ大会・新春書初め大会

基本方針2　体験を通して学ぶ伝統文化の香り高いまちづくりの支援

【重点目標】

① 伝統文化の継承を支援し、子どもたちの伝統文化への関心と理解を深めるとともに、発表の機会を提供するよう努める。

② 文化財の保存と文化施設の活用を図り、地域に密着した学習・情報拠点としてのサービス機能の向上に努める。

③ 市民の生きがいづくりを支援するため、ライフステージに応じた学習機会の充実や、学習成果を生かすことができる機会、情報の提供などに努める。

伝統文化の伝承

重点目標項目	①	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等

淡路人形浄瑠璃をはじめとし、市内で継承される伝統文化の保存伝承の支援・発表会など、後継者育成に努めた。
また、淡路人形浄瑠璃体験教室事業補助金により、淡路人形浄瑠璃を多くの児童・生徒が鑑賞できる機会を創出した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　淡路人形浄瑠璃体験教室事業では、16団体1,105名の利用があり、淡路人形浄瑠璃の魅力を発信できた。
子ども伝統芸能発表会では、今般の少子化の中、12団体約350名の出演があり、出演団体数は減少となったものの、出演者数は昨年より約50名増加した。舞台運営は、保存団体等の指導者の協力で行われるなど、郷土芸能への関心が伺われる。

【課題】　郷土芸能の保存伝承については、小・中学校等との連携を図りながら、後継者育成に取り組んでいるが、社会体育や文化活動への参加など多様化し、減退傾向にあるとともに、後継者不足・指導者不足といった課題をかかえる団体が増加している。伝統芸能の保存伝承活動のためには、伝統芸能を体験できる事業を増やし、伝統芸能の魅力を周知していく必要がある。また、保存団体間の交流の場を作り、情報交換をする必要がある。

資料館事業

重点目標項目	①	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等

江戸時代に徳島藩主、蜂須賀氏の保護の下、南あわじ市を拠点として大いに繁栄した名門市村六之丞座の諸道具一式をはじめ、主として淡路人形浄瑠璃に関する資料等の収集・保存と調査研究を目的とし、淡路人形をはじめとする郷土の伝統と文化について、地域住民の理解と関心を深めるための学習、文化活動の場を提供した。また淡路島内外において淡路人形浄瑠璃の観光PRや市内の小中学生への啓発にも役立てた。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　来館者数5,214人、団体見学57組を数えた。展示や各種講座、解説・講演などを通して、淡路人形浄瑠璃の文化的価値を、広く地域住民や観光客に発信した。特に、市内小学校の課外授業で来館した児童に対し、淡路人形浄瑠璃の歴史等について解説した。
市内の小中学校でのコアカリキュラム実施に伴い頭の貸出しや教員対象の取り扱い説明会を実施した。また、コアカリキュラムの講師として資料館の職員が出向き、淡路人形浄瑠璃の保存継承活動の啓発を行った。

【課題】　資料を安全に保存・管理するのための収蔵庫の燻蒸作業や、老朽化した空気調和機の更新、雨漏り対策を早急に計画し、実施する必要がある。
淡路人形浄瑠璃の歴史的な紹介だけではなく、淡路人形座への誘導、人形芝居鑑賞、さらにはコアカリキュラムのより一層の充実に向けた取組が必要である。大人から子供まで幅広い年齢層の理解を深めるための展示の工夫が必要である。

美術館事業

重点目標項目	②	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等	当館所蔵の直原玉青作品を中心にテーマごとの館蔵品展を3回行った。 「館蔵品展Ⅱ」の会期中には、一部作品の入替えを行い内容を充実させるとともに作品鑑賞の機会を増やすことができた。また、関連イベントとして、市民と共同でお茶会を開催した。 夏休みには、市内小・中学校の児童・生徒全員にチラシを配布し、親子で参加できる松帆銅鐸ワークショップ事業を開催するなど、歴史体験や文化活動を行なえる市民の施設として、また観光と芸術文化振興のための施設として運営を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　5月のお茶会では、茶道裏千家淡交会南あわじ支部の協力により、1日で104名の入館者を迎えることが出来た。 夏休み期間中には、ミニチュア銅鐸や銅剣等を作るワークショップを4回開催し、全日程で57名の参加があり、弥生時代の淡路の人々の暮らしなどを解説を聞きながら体験してもらうことができた。実際のものに触れたり、作るという経験を通して、淡路島の古代の歴史について、家族で学べる機会を増やすことが出来た。 VR（ヴァーチャルリアリティ）については、台数を4台から7台に増設することにより、複数のグループで同時に使用することが可能となった。 【課題】　松帆銅鐸の展示が行われる令和2年度以降の特別展示室の展示方法については、考古・歴史資料の展示をはじめ、郷土ゆかりの作家の作品展なども計画し、博物館施設を総合的に活用していくことを目標に美術館の在り方を検討していく。 VR（ヴァーチャルリアリティ）の映像の更新は今後も検討が必要である。 今後は、新型コロナウイルスの感染予防のために、スペースを広く取ることや消毒等に充分に気を付けながら活用していくことが必要である。

松帆銅鐸鋳造体験

勾玉づくり

文化財の保護

重点目標項目	②	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等

指定文化財の保護
南あわじ市文化財保護審議会に意見を求めながら、市内に有する文化財の保存・管理及び伝承に努めた。
また、文化財保護のみに留まらず、文化財を活用し、文化財を通して南あわじ市の歴史を知り、郷土愛の醸成を図る事業の実施を行った。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　市発足後、市内の指定・未指定文化財についての解説書が編集・発行されていなかったため、市文化財保護審議会のもと調査研究し、平易な言葉づかいによる親しみやすい内容の「南あわじ市の文化財」冊子を作成することができた。
指定文化財や登録有形文化財に関する市民講座を実施し、南あわじ市の特色ある文化財を紹介することで、郷土愛を育むことができた。

【課題】　現在、市内には国・県・市指定文化財が79件、国登録文化財が11件、現在検討されている市指定候補11件と多数の文化財が存在し、今後、適正な保存管理のため、よりきめ細かな状況把握に努め、計画的な保存・管理対策を講じていく必要がある。
松帆銅鐸の普及啓発及び情報発信はもとより、庁内各課と横断的に協力し、市内に点在する淡路島日本遺産の構成文化財を有効活用し、多くの人に魅力を届ける必要がある。

埋蔵文化財の保護

重点目標項目	②	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等

埋蔵文化財の保護と公開
①埋蔵文化財調査について
養宜地区市道新設予定地の本発掘調査ほか3件の調査を実施し、養宜地区圃場整備の本発掘調査については民間委託を行った。
②松帆銅鐸について
- 『松帆銅鐸調査報告書Ⅰ』の編集発行
- 松帆銅鐸展示室の整備
- 調査研究委員会の開催
- 科学分析調査の実施
- 市民講座の開催

③教育・普及活動について
- 古代淡路島フェスティバル等で、勾玉づくり、ミニチュア銅鐸鋳造体験等のワークショップを開催した。
- 『九蔵遺跡Ⅰ』報告書の編集・発行
- 淡路島日本遺産展と発掘調査速報展を開催した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　養宜地区市道新設予定地の本発掘調査において、川の跡を掘削したところ、祭祀に使用された多量の土器が出土した。
松帆銅鐸のこれまでの調査・研究の成果を『松帆銅鐸調査報告書Ⅰ』として編集・発行した。
古代淡路島フェスティバルでは、鉄器鍛冶体験を淡路市に依頼し、淡路島の「海の民」が伝えた先進技術を感じられるような、島を挙げてのフェスティバルとなった。
鋳造体験は、松帆銅鐸を含め、5種に型を増やし体験ワークショップを積極的に実施し、過去最高の406人が体験を行った。
また、市民講座では、各地の銅鐸をテーマに取りあげ、松帆銅鐸との違いを明らかにすることで、銅鐸への知見を広げる事ができた。
淡路3市が兵庫県立考古博物館と協力して、洲本市立淡路文化史料館において、淡路島日本遺産展を開催した。そのサテライト展示として、平成29・30年度の発掘調査の成果による速報展を広田地区公民館及び淡路人形浄瑠璃資料館で開催し、養宜地区と国衙地区の未公開の発掘成果を市民に公開した。

【課題】　松帆銅鐸をはじめ市内出土の埋蔵文化財を積極的に活用・情報発信し、郷土の歴史文化遺産への関心を高め市民の郷土愛の醸成を育てていく必要がある。
養宜地区をはじめとして、開発事業による発掘調査事業が増加している。このため、業務を民間業者へ委託するとともに現場を監督し、調査精度の維持に努めなければならない。

南あわじ市音楽祭

重点目標項目	②	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等	市民が国内最高峰の演奏家によるクラシック音楽を鑑賞する機会として、第8回南あわじ音楽祭を企画・実施した。 会場では、南あわじ市出身の物理学者で純正調オルガンの発明者・田中正平博士の功績についてパネル展示を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　市民が生の音楽に触れられる機会を創出し、第8回南あわじ音楽祭を実施した。この度は東京フィルハーモニー交響楽団トップメンバーに加えて実力派ソプラノ歌手を迎え、本格的なオペラが楽しめるプログラムとなった。入場者数は290人。（前年度比較して、中央公民館から湊地区公民館へ変更したため123名減となった。） 【課題】　現在の音楽祭を実施している音楽によるまちづくり実行委員会は、その大半が設立当時のメンバーであり、新しい委員が加入していない。10回目の音楽祭が一つの区切となるため、それまでに次の担い手が必要である。

図書館資料の充実

重点目標項目	②	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等	市立図書館と3公民館図書室（中央・広田・湊）の運営では、図書館協議会の意見を活かしながら、蔵書の充実や利用者へのサービス向上に努めている。また、次年度からの図書館のあり方について検討した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　蔵書数309,189冊、図書館年間貸出冊数は延べ204,281冊、貸出利用人数は延べ51,976人でほぼ前年なみであった。おはなし会やブックスタート事業を通じ、幼児から若年層へと幅広く読書に親しむ機会を提供することができた。図書館が市民の生涯学習の場・交流の場として機能している。 【課題】　図書館サービスの根幹である蔵書の収集・保存・提供を充実するため、市民の学習活動の支援や読書活動に役立つ資料の収集、選書を検討し、利用者へのサービスが低下しないように配慮する必要がある。 また、カウンター業務において、よりきめ細やかな接遇の向上を図りたい。

子ども読書活動の推進

重点目標項目	②	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等	子どもの読書への意欲・関心をより高めるため、各種読書活動を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　「おはなし会」、「ブックスタート」、図書館フェアの「工作教室」等を実施することにより、多数の親子が図書館を訪れることができ、本と触れ合う機会を提供できた。 【課題】　本に親しむ環境に導くために、子どもたちを図書館に招き入れる仕組み作り、創意工夫が必要であり、POP等、独自のアイデア、事業を検討していく必要がある。

文化団体育成事業

重点目標項目	③	担当課	中央公民館

事業内容・実施状況等	南あわじ市文化協会を中心とした市民の文化活動に助成を行うとともに、各種文化団体の運営等、その活動を支援した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　文化協会の連携による、ふれあい文化芸能祭を中心に、各地区公民館などが実施する文化祭など、多くの市内住民が参画する機会を提供することができた。 【課題】　文化協会の組織の若返りと体制強化を推進する必要がある。

学習機会の提供（公民館事業）

重点目標項目	③	担当課	中央公民館

事業内容・実施状況等	中央公民館において、教養・健康・実用・子ども向け等の講座を前期23講座、後期4講座を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　各公民館での独自性のある講座開催により、多様化した学習内容の学習機会を提供することができた。また、21地区に設置している地区公民館と連携し、芸術文化の振興を図ることができた。 【課題】　公民館職員の減少と所管事務の増大や事業関係予算の縮減により、従来どおりの講座運営が難しく、事業の縮小が進んでいる。今後は住民のニーズを汲み取った講座の中でも、運営が簡単な講座や回数等を精査し、実施する必要がある。

公民館活動

アジア国際子ども映画祭（本選大会、関西・四国ブロック大会）

重点目標項目	③	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等

映画制作を通して、子どもたちの協調性や責任感を養い精神的な成長を望むとともに、「子どもたちの心に内視鏡を入れよう」というコンセプトのもと、小・中・高校生を対象にテーマを設けて、3分間の映像作品をコンテストする。
また、アジア15カ国地域の参加者と国内の子ども達との交流の機会として、前夜祭やアフターパーティを開催した。
当映画祭は、平成27年度から平成30年度まで北海道北見市で開催されていたが、令和元年度から南あわじ市に引き継がれ、12月7日に南あわじ市文化体育館において、本選大会として第13回アジア国際子ども映画祭IN南あわじ市が開催された。
また、9月28日に関西・四国ブロック大会が南あわじ市において開催された。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　令和元年度のテーマは「迷惑をかけることとは？～自分だけが良ければいいか？人のことも考えてあげられるか？～」
子ども達が作った映像審査及び本選大会受賞式に至るまでの協議や意見交換を通じて、子ども達の心の声に耳を傾けるきわめて有意義な機会となった。
また、本選大会に参加した国内の子ども達は、アジア各国・地域の子ども達と交流を図ることで友好を深めるとともに、国際的な視野・他国の文化を知る貴重な経験ができた。

- 本選大会参加人数　700人（国内61名、海外128名、一般270名、協賛・来賓・関係者241名）
- 応募作品数　470作品（141作品、海外329作品）
- 本選ノミネート数　69作品（国内24作品、海外45作品）

【課題】　子どもだけで映像作品を制作するという関わりが難しい事業であるが、青少年の育成に寄与することを重点に置いた事業として、国際交流の機会を重視した行事を計画することと、南あわじ市の魅力が心に残り再び訪れてもらえる事業として計画をする。

高齢者大学うずしお学園

重点目標項目	③	担当課	中央公民館

事業内容・実施状況等

南あわじ市在住で60歳以上の方を対象に、豊かな老後生活と個人の学習意欲を高めるとともに、相互の親睦を図り、さらには地域での指導者として、生きがいのある生活基盤を構築できる手助けとなることを目的とする事業である。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　一般教養講座の充実と併せて、クラブ活動にも力を入れた結果、健康クラブ及びふるさと探訪クラブの参加者が徐々に増え、全体の受講生数は180名と前年より減少する中で、うずしお学園を通じて中央公民館へ足を運ぶ受講生数は増加した。また、一般教養講座以外にも特別講座として高齢者向けらくらくスマホ講座など要望に基づき開催した。

【課題】　社会参加を行い現役で活躍する高齢者が増えたことで、高齢者大学の新規受講生や、特に若年高齢者層が少なくなり、平均年齢も78歳を超えるまでになった。そうなると中央公民館まで通学する交通手段に窮する受講生が増えてきた。

基本方針3　人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進

【重点目標】

① さまざまな人が、ともに生きることのできるまちづくりに向け、地域にある身近な人権問題に気づき、正しい認識を培い、主体的な行動を促す人権学習を進める。

② 一人一人の個性が大切にされ、人権尊重の文化に満ちた社会の創造に努める。

人権啓発の推進

重点目標項目	①	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等	人と人とが温かくふれあい、つながりの輪を広めることを目的に、8月は人権文化をすすめる県民運動推進強調月間、2月は人権週間に合わせ、人権フェスティバルを開催し、啓発活動を推進した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　8月の人権文化をすすめる県民運動推進強調月間にあわせて、じんけんサマーフェスティバルを開催し、落語家の桂文喬さんを講師に招き講演会や落語などを開催した。 また12月の人権週間中のフェスティバルでは人権作文の表彰式と代表者による朗読で、子どもたちが自分の生活をしっかりと見つめ、体験を通して感じたことを表現した作文の内容を、大人も聞くことにより、多様な人権文化を学ぶ好機となった。 幅広い年齢層向けで啓発を実施したこともあり、サマーフェスティバルでは約350人、12月のフェスティバルでは約300人の参加があり、人権意識が広く浸透した。 【課題】　人権尊重の文化が根付くまちづくりを推進するためには、継続的な啓発事業が必要である。フェスティバルは、身近な話題で人権課題に向き合えるように工夫し、一定の成果を得ている反面、前例踏襲の取組となっており、参加者が減少している。今後は、実行委員会の運営方法やフェスティバルの総合的な見直しが必要である。 人権が身近な課題であり、意識せずとも日常の行動において自然な形であらわれるよう啓発活動を行う。

人権フェスティバル

人権教育の推進

重点目標項目	②	担当課	社会教育課

事業内容・実施状況等

(1)地区別人権学習会
身近な生活の場において、解決すべき人権課題があることに気づき、部落差別をはじめとしたあらゆる人権問題の解決に向けた学習活動を実施した。
(2)人権学習講座
差別解消三法の施行により、教育・啓発が地方公共団体の責務となっていることから、法律の内容を知り、私たちにできることを考える講座や情報化社会によりSNSへの投稿が容易になり、人権侵害の被害者にも加害者にもならないための講座を実施した。

成果・課題及び今後の対応等

【成果】　人権問題が多様化、複雑化している現代社会において、人権に関する正しい理解と認識を深めるために、身近な人権課題に気づくことから始める冊子「気づきタウン」を作成し、「気づこう！まなぼう！ともに歩こう！」をスローガンに人権学習会を実施した。
地区別学習会では、本年度は、「子どもの人権」を重点テーマとして、DVD「君が、いるから」を活用し、児童虐待の現状や課題への認識を深めた。また、須磨の教師によるいじめなど話題になった実例や日常生活での身近な課題を取り上げ、市内12地区で学習会を実施した。
差別解消三法の施行や、急激な情報化社会の進化による新たな課題に取り組むために、市職員研修をはじめとする人権研修会を実施し、法律の理解やSNSの差別事象の現状を理解し、対応の必要性を学んだ。

【課題】　市民の意識の中には、依然として人権学習は難しい、堅苦しいといった意識がある。人権研修会においては、市民に身近な話題を提供し、自分たちに何ができ来るかを考え、行動を促すことが必要である。
インターネットの急速な進展により、差別が拡大している現状であるため、幅広い年齢層の研修を継続的に実施しなければならない。

企業人権研修

人権啓発懸垂幕

基本方針4　運動に親しみ体力の向上をめざした生涯スポーツの推進

【重点目標】

① 気軽にスポーツを楽しめるよう環境整備に努めるとともに、地域に根付く多様なスポーツ活道の推進を図る。

② 優れたスポーツイベントに触れる機会を提供し、住民に夢と感動を与え、スポーツへの関心を高め、社会に活力を生み出し、住民生活に広く寄与する。

③ 豊かなスポーツライフを実現し、体力の向上と地域コミュニティづくりに活かす。

近畿高等学校駅伝競走大会

重点目標項目	①②	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等	令和元年度より近畿高等学校駅伝競走大会が南あわじ市内で開催され、近畿各府県より男女各40チーム、約800名の選手・関係者が参加した。本大会はおのころ島神社をスタート、三原中学校をフィニッシュとするコースで、6年間開催される予定である。開催県からの出場10チームのうち、淡路島枠として必ず1チームは出場できることとなっている。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　島外から多くの選手を始めとした関係者が来島されたことによる宿泊者数の増加等、市の経済活性化に寄与した。また、市民にとって駅伝に間近で触れる機会となり、島内高校の出場枠も設けられていることから、市内の高校生、中学生にとって大きな目標をもって部活動に励むことができている。 【課題】　駅伝コースが市内中心部を通っていることから、関係する住民、事業所に対して大会開催及び通行規制の周知を徹底し、理解を得なければならない。大会が単年開催ではなく、6年間開催されることから、地元の理解、協力が成功に向けて必要不可欠となる。兵庫県高等学校体育連盟、淡路陸上競技協会と連携を図りながら、安心安全な大会運営を目指していく。

体育協会大会の開催

重点目標項目	①②③	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等	南あわじ市体育協会主催事業として体力測定会やランニングフェスティバルを始め、市との共催でオリンピック・パラリンピック推進を目的としたスポーツ体験会を実施した。各種目協会主管大会14回、地区主管事業19回を開催。生涯スポーツ社会の実現、健康保持、体力維持に繋がる運動の意識づけや啓発を目的とした事業を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　体力測定会には130名が、ランニングフェスティバルには562名が参加した。またスポーツ体験会には150名が参加し、市民のスポーツ等への関心は高くなっている。種目協会や地区事業を通じ、スポーツの普及活動や青少年育成にも積極的に取り組めた。 【課題】　市民の健康増進やスポーツへの理解と関心を広める必要と、東京五輪に向けて市と協力しながら市民へのスポーツ普及に力を入れていく必要がある。各種目協会や地区の声を密に拾い上げ、効率的な事業の実施に努めたい。また、事務の効率化を目指し運営方法の改善についても検討したい。

温水プール運営事業

重点目標項目	①③	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等	平成25年度から5年間の指定管理を終了し、引き続き30年度から(株)エヌ・エス・アイを指定管理者として運営委託している。水泳を通しての市民の体力向上、健康促進を図った。自主事業として幼児から大人までの水泳教室を実施し、競技力向上にも力を入れ全国大会出場者も輩出している。また循環ろ過機操作弁の取替工事、ヒートポンプ温水機更新工事等を実施した。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　建設から25年以上経過し、施設及び設備が老朽化している中、ヒートポンプ温水機更新工事等の各種更新工事を実施したことで、安心、安全な施設づくりを目指すことができた。 【課題】　老朽化が進む中、電気系統、ヒートポンプ温水機器においては順次更新工事を進めているが、天井の雨漏りについても、施設全体に発生しており、令和2年度に防水工事を実施する予定である。また、運営方法に工夫を凝らして、利用者数増に繋げていくことを期待したい。

基本方針5　社会教育の指導者としての資質と実践的指導力の向上

【重点目標】

① さまざまな個人の要望や社会の要請に応える専門的指導者の育成に努める。

② 学校・家庭・地域の連携を支える指導者の育成やネットワークづくりを進め、地域の教育力の向上に努める。

③ 地域においてスポーツを推進する中から優れた選手、指導者を育み、その選手、指導者が地域におけるスポーツの推進に寄与するという好循環を創出する。

社会教育活動事業

重点目標項目	①	担当課	社会教育課・体育青少年課

事業内容・実施状況等	市内に指導者としての資質を有する人材を発掘し、指導の機会などを提供すると同時に、指導者交流の機会などを通じて、人材の育成や資質の向上に努めた。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　公民館講座、伝統芸能保存伝承、放課後子ども教室、アフタースクール等、生涯学習の各分野で指導者として地域人材を活用し、教育活動に参画いただくことができた。 【課題】　事務局は社会教育活動に参画できる人材を、いつまでサポートし、その先どう自立させていくかを中長期的に検討したのち事業を始める必要がある。また、継続事業はいつまでサポートすべきかを検討する必要がある。

学校支援地域本部事業

重点目標項目	②	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等	学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えるため、地域住民に学校支援ボランティアとして協力をお願いし、市内小中学校の各種授業等の運営を支援している。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　校外学習（町探検）の引率、校内マラソン大会の安全管理、小学1年生の下校時の見守り引率等、児童の安全のため、校外での安全指導を支援してきた。 また、家庭科授業では製作（エプロン、ナップザック等）、調理実習補助を支援してきた。 ゲストティーチャーとして、ブラインドサッカーの体験授業等を実施した。 ボランティアの確保や活動を広く周知することについて、ボランティアが必要な小学校区に募集のチラシや活動状況のチラシを配布し活動内容の周知を図った。その結果、平成30年度は2名の新規登録があった。 また、活動回数は令和元年度119回であり、実施小中学校は16校であった。 【課題】　引き続き、各地域、校区で活動可能な新たな地域ボランティアの確保に向けて、活動を広く周知することが必要であるとともに、市民交流センターと協力しながら地域と学校が連携・協働する体制を構築していく必要がある。

南あわじ市スポーツ賞

重点目標項目	③	担当課	体育青少年課

事業内容・実施状況等	南あわじ市の体育・スポーツの普及、推進及び競技力の向上を図るため、スポーツに関し優秀な成果を収めた者若しくは団体又は体育・スポーツの健全な普及及び発展に貢献した者若しくは団体に対してスポーツ賞の表彰を行った。
成果・課題及び今後の対応等	【成果】　本市の体育・スポーツの普及、推進に著しく功績を収めた者(功労賞2名)、スポーツ競技において優秀な成績を収めた者及び団体(優秀選手賞71名、奨励賞14名)、合計87名に授与した。 【課題】　市内スポーツ関係者などからの情報収集ができているが、島外や社会人として活躍をしている方の情報が少ないため、より多くの方に周知できるよう関係者との連携を強化し、情報収集の方法について検討していく必要がある。

Ⅲ. 教育環境の変化に対する取組

教育委員の活動

1. 毎月、定例会議を開催した。
2. 総合教育会議を２回開催した。
3. 県主催研修会等、５回の研修会に参加した。
4. 小学校９校、中学校４校の学校訪問を実施した。

教育施設再編に向けての取組

1. 小学校の統合に向けて、該当校の教員やPTA代表の方々らと５回会議を開催した。

教育環境の整備

【 学校教育施設 】

1. 小学校４校（湊・旧西淡志知・旧三原志知・沼島）に空調設備設置工事を実施した。
2. 校舎等営繕工事を実施した。
   - 小学校　阿万小学校ブロック塀改修工事ほか　12件
   - 中学校　西淡中学校改修工事ほか　８件
3. 小学校の校庭開放に伴い、３校（倭文・榎列・賀集）の遊具整備工事を実施した。

【 社会教育施設 】

1. 福良地区公民館耐震補強大規模改修工事を実施中（令和元～２年度）。

Ⅳ. 評価委員の意見

南あわじ市教育に関する事務の点検及び評価委員会委員
前川　美津子
榎本　俊彦
宮崎　典弘

学校教育について

□　中学校体験事業では、ものづくり体験として各分野のプロから直接指導を受け、また、本格的な交響楽団の演奏を鑑賞した。ほんものに触れる感動を肌で感じ、感受性を養う非常にすばらしい事業である。引き続き実施していただきたい。

□　特別な支援を要する児童生徒への対応については、学校、家庭、看護師との連携をさらに強化するとともに、コーディネーターの役割が非常に重要であるため、各学校への配置について充実させていく必要があると考える。
また、通級指導を要する児童生徒が年々増加する中、多種多様な対応が求められる。個々に応じた柔軟で手厚い指導に取り組まれたい。

□　外国語活動支援員の派遣・英語教育の推進については、小学校で、担任、ＡＬＴ、ＳＴの３人体制による授業の実施が定着しているが、英語学習が低年齢化する中、楽しく英語に触れ、苦手意識を持つことなく中学校へ移行していける授業づくりに取り組まれたい。

□　コアカリキュラム事業では、小中学校の９年間を通して、毎年ルーブリック評価を行い学習到達度を明確にしているが、「ほめる」という肯定的な評価を基本に、児童に自信を持たせ、子どもも教員も共に成長していく事業として今後も発展させていただきたい。

□　小学校体験事業は、地域性を生かして環境体験を行ったり、防災教育を取り入れて実施している。地域のメリット・デメリットを上手く活用し、地域や環境について学ぶ大切な機会となっているため、今後も継続して実施されたい。

□　児童生徒の個に応じた多様な指導の充実を図る一方、教員の対応も多種多様にわたり、負担増にもつながっている。体力的精神的な疲労を蓄積させないよう、教員の働き方の合理化及び効率化を図られたい。

□　夢プロジェクト事業は、著名なスポーツ・文化人と交流する場となっているが、感化力のある人物に出会い、感動と幸せを得る機会が、子どもたちの将来の選択肢を広げる契機となる重要な事業でもあるため、引き続き実施されたい。

□　「特別の教科　道徳」が小中学校で全面実施されたが、単に「いい子」であることを教師に見せることが強調される場とならないよう、人・ふるさとを大切に思い共生する人づくりを推進されたい。

□　自然学校における防災教育の取組や防災教育の推進については、防災に関する知識が不可欠な地域性であることから、今後も率先して取り組んでいただき、子どもたちの防災力の向上に努めていただきたい。また、子どもたちの意識向上が住民の地域防災への気運の高まりにつながることを期待し、地域防災との連携についても検討されたい。

□　教職員に対する様々な研修が実施されているが、中堅及び管理職教員と若手教員とのギャップ解消のために、知識の共有や意識改革によって融和を図り、資質向上につながるよう、研修の見直しと充実を図られたい。

□　教育用コンピュータの運用は、教員の業務負担を軽減するねらいがあるが、軽減により得られた時間を自主研修、休憩、子どもたちと向き合う時間として活用できるよう、さらなる充実を求める。

社会教育について

□　放課後児童健全育成事業（学童保育）は、共働き家庭が増加傾向にある中、非常にニーズが高い重要な事業である。アフタースクール事業との連携を図り、プログラムの充実をさらに進められたい。

□　アフタースクール事業は、様々な体験学習を取り入れており、子どもたちが自分を表現でき、充実した放課後を過ごせる貴重な時間となっている。地域の方の理解・協力を得て、市内全域への拡張を求める。

□　青少年健全育成事業では、参加体験型のわんぱく塾が口コミで広がり人気である。大人数で行う事業を多数実施しており、集団での自立性の確立といったしっかりとした目標を掲げている。
また、サマースクール事業でも長期休暇ならではの体験学習等が実施されており、子どもたちに貴重な体験ができる機会を提供している。
両事業ともすばらしい事業であるが、内容が重複する部分については見直し、精査したうえでさらに充実した事業になるよう期待する。

□　文化財の保護については、市の指定文化財の集大成として、文化財保護審議会のご尽力により、「南あわじ市の文化財」冊子が発行された。市内の特色ある文化財が取りまとめてられておりすばらしい。
滝川記念美術館 玉青館については、その存在を知らない市民の方もまだまだいらっしゃると思うので、さらなる普及啓発をしていただきたい。

□　図書館資料の充実については、接客を丁寧にしていただいている。今後も市民にとって身近で利用しやすい取組を展開していただきたい。